

(5) その他の部門

① 廃棄物

(ア) 取組みの方向性

「第2期北九州市循環型社会形成推進基本計画」(2021年度策定予定)と整合を図りながら、廃棄物処理の高効率化、高度化を進め、温室効果ガスの排出削減に努めるとともに、エコタウンを中心としたリサイクル事業の推進により、「地消・地循環」を実現する循環型社会の構築を目指し、脱炭素社会の実現に貢献していきます。

(イ) 主な取組み

- 廃棄物の減量化・資源化に取り組み、ごみ処理施設(焼却工場や最終処分場)における燃料消費量を削減するとともに、施設の更新時には、高効率発電設備や省エネルギー型機器の導入を推進します。
- ごみ処理部門の温室効果ガス排出量では、プラスチック類の焼却に起因するものが大半であるため、プラスチック製容器包装のさらなる資源化や、プラスチック製品の回収の検討など、プラスチック類の焼却量を削減します。また、指定ごみ袋等の原材料の一部にバイオマスプラスチックを導入し、焼却時に発生する温室効果ガスを削減します。
- 焼却時に発生する熱エネルギーを有効利用して発電し、電力会社等へ売電することにより、発電時に発生する温室効果ガスの削減に貢献します。
- 「連携中枢都市圏構想」に基づく北九州都市圏域の枠組みの中で、一般廃棄物の広域処理を進めます。
- 技術開発支援や社会システムの整備を通じ、既存のエコタウン事業の支援やリサイクル産業の新規創出、高度化を進め、環境ビジネスを推進します。
- 2050年に向けた脱炭素社会の実現を見据え、低燃費型の収集運搬車両の導入促進や、焼却工場から排出される排ガスからのCO₂の分離回収・活用といった先進都市の取組み事例や技術革新の動向にも注視していきます。

② メタン、代替フロン類

- 従来から取り組んでいる省エネ対策や廃棄物の3R推進・適正処理などの対策は、CO₂の削減だけでなく、メタンや一酸化二窒素の削減対策としても有効であるため、これらの対策を着実に進めます。
- 代替フロン類については、機器所有者等に対する管理点検の適正化や点検整備の記録作成に関する啓発などの「フロン排出抑制法」に基づく国・県の施策に協力します。また、「自動車リサイクル法」に基づくフロン類回収業者に対して立入検査等を行い、適宜、指導等を行います。

(6) 森林等による吸収

① 取組みの方向性

「第2次北九州市生物多様性戦略」や「北九州市緑の基本計画」と整合を図りながら、継続的な植樹や間伐を行い、CO₂吸収源である緑地・森林を適正に管理し、持続可能な発展が可能なまちづくりを目指します。

② 主な取組み

- 豊かな自然の恵みを活用し、自然と共生するまちの実現のため、生態系保全に関する情報交換や自然環境に関する市民啓発、市民参加による植樹などを行います。
- 荒廃する恐れのあるスギ林やヒノキ林について、公益的機能が長期に渡って発揮されるよう、間伐を実施し、森林の健全な育成を行います。
- 新たな森林経営管理制度による適正な森林整備を行うとともに、林道の整備や放置竹林の解消を図るほか、森林環境に関する普及啓発を実施します。
- 放置竹林の拡大を防止するため、周辺の森林へ侵入した竹の伐採、放置竹林の皆伐及び他樹種への転換を行うとともに、市民参加による竹林管理への助成や竹が資源として活用される循環システムを構築し、竹材の利活用を促進します。
- 本市は、水源の約8割を市外に依存しており、水源地において実施される森林保全活動に参加します。
- 全都市環境の向上につながるよう、市民等に花と緑のまちづくりの普及啓発を行います。



(7) 人財育成

① 取組みの方向性

脱炭素社会の実現という高いハードルを乗り越えるためには、市民の環境力が重要な財産であると考え、豊かな自然環境、様々な環境教育施設、大学、研究機関などを活用した環境学習や、環境イベントにおける積極的な周知・啓発を行うなど、ESDを中心として、あらゆる世代の環境人財の育成を推進します。

② 主な取組み

(ア) 就学前の子どもから高齢者まであらゆる世代に向けた環境学習の推進

- 環境ミュージアム、エコタウンセンター・響灘ビオトープ等の環境学習施設や平尾台、山田緑地等の施設を生かした体験型プログラムや、教材等の環境学習プログラム、環境に係る学習システムの充実を通じて、成長過程や地域特性に応じた環境保全活動・環境体験を推進します。
- 市民一人ひとりが環境との関わりを理解し、より良い環境・地域づくりへの意識をもって行動を起こすことのできる環境人財を育むため、「環境首都検定」「こども環境学習」をはじめとする施策に取り組みます。
- 北九州市の魅力(産業・環境・歴史・暮らし)に関わるSDGsの視点に立った地域教材資料集を作成し、教材等の学習に活用することにより、シビックプライドの醸成を図ります。
- SDGsの視点を踏まえた教育の具現化に向け、SDGs教育推進校を指定し、特色ある取組み及び実践研究を行い、その成果等を取りまとめて全市に発信し、SDGsの視点を踏まえた教育の拡大・充実につなげます。

(イ) 横断的連携による市民環境力の更なる推進

- 市民環境力の向上を目指し、北九州エコライフステージ事業などを通じて、環境活動の情報発信・啓発・交流を行い、市民・NPO・学校・企業などによる環境活動の実践を促します。【再掲】
- 世界規模で進められるESD(持続可能な開発のための教育)を、北九州ESD協議会を中心に、市民・NPO・学校・企業・行政等が連携しながら推進します。
- 市民や団体等の活動支援やマッチング促進などの支援を行うことで、SDGsの浸透及び人材の育成を図るとともに、成功事例の表彰などにより取組みの「見える化」を図ります。

(ウ) 高度な環境人財育成

- 市内の風力発電を中心とした再生可能エネルギー関連企業に対する大学生等の関心を高め、地元の就職を促進するためインターンシップ、地域懇話会、シンポジウムなど産学官が連携した取組みを実施します。
- 地元大学と連携して、今後の脱炭素化技術のオペレーションを担う有能な人材を育成するとともに、地元就職など継続的な人材確保に繋がる仕組みを構築します。